

ウォーターフロントにおける店舗のオープンテラス設置方策に関する研究

—(その3)東京都と横浜市の都心型店舗を対象として—

A Study on the Open-air Terrace Installation Technique of the Store in Waterfront

—(Part 3) In Case of Waterside Restaurants Located in inner city of Tokyo and Yokohama Area —

○白川孝子¹，桜井慎一²，小川瑛隆³，桜井恵理¹

1. はじめに

ウォーターフロントに立地する店舗の多くにオープンテラス(テラス)が設置されている。前稿(その2)¹⁾では、神奈川県湘南地域と千葉県房総半島地域といった郊外に立地する店舗を対象に調査を行った結果、ウォーターフロント特有の気象条件や海景の良し悪しがテラスの利用に影響を与えることが実証できた。

そこで本稿では、都心のウォーターフロントに立地する店舗に設置されているテラスの利用実態を把握することで、好ましいテラスの設置方策に関し論究する。

2. 調査方法

本稿では、東京港(T)と横浜港(Y)の水面から最も近い主要幹線道路沿道までの範囲に存在する飲食店のうち、テラスが設置されている店舗を調査対象とする。調査は、テラスの設置状況を把握する「実測調査」と、店舗経営者または管理者に対してテラスの利用実態等を尋ねる「ヒアリング調査」の2種類を行う(表-1)。

3. 結果および考察

文献調査^{2), 3)}と現地踏査を行った結果、テラスを設置した飲食店72店舗を抽出できた。その中から調査拒否店舗等を除く36か所で有効回答が得られた。

表-2は店舗全体の利用者のうちテラスの利用を希望する人の割合(利用割合)を季節別に算出した数値と、その他調査結果の一部を各店舗でまとめたものである。

(1) 昼と夜の利用割合の違い

「a. 季節別のテラスの利用割合」の「昼」の全店舗の平均は、春は57%、秋は58%と高いのに比べ夏は29%、冬は16%と約2分の1になっている。これは、夏季の強い日差しや冬季の冷たい風といったウォーターフロント特有の気象条件が反映された結果といえる。

次に、「夜」の全店舗の平均をみると夏が64%と1年

表-1 調査概要

調査期間	2005年8月30日～9月26日
調査対象地	東京港および横浜港の水面から最も近い主要幹線道路沿道まで
調査方法	① 現地調査による実測調査(全16項目) ② 直接面接形式によるヒアリング調査(全15項目)
有効回答店舗数	36か所

を通じて最も多用されていることがわかる。これは、夜になると気温が下がり水面から心地よい風が吹くことで、テラスが滞在に適した環境になるためである。また、ヒアリング調査で「テラスの設置目的」を尋ねた結果、「夜景を見せるため」と回答した店舗は30か所あり、そのうちの20か所では夏の「夜」の利用割合が70%を越える。一方で、夜景を重視していない6店舗では70%以上の店舗が1か所のみであることから、夜景の存在がテラスの夜間利用の促進に貢献したといえよう。

さらに、海が見えないテラスの夏の利用割合の平均が「昼」(40%)と「夜」(55%)でさほど差がないのに対して、海が見えるテラスでは「昼」(27%)に比べ「夜」(65%)が約2.5倍も高くなっている。この要因として、夜景の中でも、水面に映る橋の倒景のようなウォーターフロント特有の印象的な景観がテラスの魅力をより一層向上させたといえよう。

また、夏の「夜」の利用割合が「昼」よりも50%以上高くなるテラスは10か所あり、そのうちの5か所では「b. 海を見せるための工夫」として「⑦照明を落とす」ことや「⑧夜はパラソルをとる」といった配慮をしている。このように、テラス全体を必要以上に明るくしないことや、夜景を阻害するものを取り除く等、夜景をより良く見せる工夫を行うことも重要である。

(2) 気象条件に対する対策

「c. 日差し対策」をみると、3か所を除く残りすべてのテラスで何らかの対策をとっていた。特に、日差しの影響を受けやすい夏の「昼」でも利用割合が50%を超えるテラスは11か所で、そのうちの7か所では固定

1：日大理工・学部・海建

2：日大理工・教員・海建

3：日大理工・院・海建

表-2 ヒアリング調査結果および実測調査結果

店舗No.	a. 季節別のテラスの利用割合(%)										b. 海を見せるための工夫 ^{注1}								c. 日差し対策 ^{注3}					d. 風対策	e. 設置階数(階)	f. テラスと外部の境界部		写真
	昼					夜					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	①	②	③	④	⑤			歩道との関係	境界部の整備	
	春	夏	秋	冬	年平均	春	夏	秋	冬	年平均																		
T-1	10	0	10	0	5	10	10	10	0	8															6	非接道	柵	写真-1 屋根の設置の例
T-2	70	10	30	0	28	50	70	50	0	43															5	接道	柵	
T-3	90	10	90	10	50	90	50	90	10	60	●														5	接道	柵	写真-2 透過性の悪い柵の例
T-4	30	30	30	10	25	50	70	50	10	45	●														5	接道	植栽	
T-5	90	10	90	10	50	90	90	90	10	70															3	接道	柵	
T-6	70	10	70	10	40	70	70	70	0	53															5	接道	植栽	
T-7	0	0	10	0	3	10	30	30	10	20	●														5	非接道	柵	
T-8	50	10	50	10	30	30	70	70	10	45	●														6	非接道	柵	
T-9	50	30	70	10	40	50	50	30	10	35	●														3	接道	植栽	
T-10	50	10	10	0	18	30	50	30	10	30	●														6	非接道	柵	
T-11	50	30	50	10	35	10	70	50	10	35		●													5	接道	柵	
T-12	70	10	70	0	38	70	90	70	10	60															6	非接道	柵	
T-13	70	10	70	0	38	90	10	90	0	48	●														6	非接道	柵	
T-14	50	10	50	30	35	70	50	70	10	50	●														6	非接道	柵	
T-15	70	10	70	0	38	70	90	70	0	58	●														5	非接道	柵	
T-16	30	10	50	0	23	30	70	70	0	43	●														5	非接道	柵	
T-17	90	10	90	30	55	90	90	90	10	70	●														5	非接道	柵	
T-18	70	30	70	30	50	50	90	50	10	50	●														5	接道	柵	
T-19	90	70	90	10	65	50	70	50	10	45	●														3	接道	柵	
T-20	10	50	30	10	25	10	70	30	10	30															6	非接道	柵	
T-21	90	70	90	30	70	90	90	90	30	75	●														1	非接道	柵	
T-22	90	50	70	50	65	90	90	90	50	80	●														1	非接道	柵	
Y-3	50	70	10	10	50	30	70	50	10	40															2	非接道	柵	
Y-4	90	50	90	90	80	90	90	90	90	90															1	接道	柵	
Y-6	10	0	30	0	10	10	30	10	0	13															1	接道	植栽	
Y-7	90	50	90	10	70	50	90	50	10	50															1	非接道	柵	
Y-8	90	90	90	30	75	70	70	70	10	55	●														2	非接道	柵	
Y-9	30	10	30	0	18	50	70	50	0	43	●														1	接道	段差	
Y-10	30	30	30	0	23	30	50	30	0	28	●														1	接道	段差	
Y-11	30	30	30	30	30	30	50	10	10	25	●														1	接道	段差	
Y-12	30	10	30	10	20	10	30	30	10	20															1	接道	段差	
Y-13	70	50	70	10	50	40	90	70	10	53															1	接道	段差	
平均	57	27	57	14	39	50	65	56	12	46															1	接道	段差	
海が見えない																												
T-23	30	30	10	0	18	0	30	0	0	8															1	接道	植栽	
Y-1	70	30	70	10	45	70	50	70	10	50	●															1	接道	植栽
Y-2	30	50	70	10	40	30	70	70	10	45																2	接道	植栽
Y-5	90	50	90	90	80	70	70	70	10	70	●															1	接道	柵
平均	55	40	60	28	46	43	55	53	23	43																		
全店舗の平均	57	29	58	16	40	50	64	56	13	45																		



写真-4 高低差が少ない段差の例

式の「③屋根」(写真-1)の設置だけでなく、それに加え「④パラソル」等の可動式の対策もとっている。一方、「①オーニング」や「④パラソル」等の可動式のみの簡易な対策をとっているテラスは、夏の「昼」の利用割合が他の季節に比べ低い傾向にあることから、固定式の「屋根」等のしっかりとした対策を施すことが好ましい。

次に、「d. 風対策」をとっているテラスは8か所のみであるが、このうちの5か所では冷たい風などの影響を強く受ける冬でも「昼」の利用割合が30%以上を維持している。さらに気温が下がることで極めて滞在に適さない冬の「夜」でも、利用割合が70%を超えるY-4、Y-5では、「透明扉」でテラスを囲う対策を行っている。このように、視界を遮らないような透過性の良い素材であれば、テラスを囲い冷たい風を防ぐことで冬季の利用を促進させることができる。

(3) オープンテラスと外部の境界部

「f. テラスと外部の境界部」をみると、歩道と接道しないテラスは16か所で、そのうちの13か所では「e. 設置階数」が2階以上であり、転落防止のための柵を設

置している。これらの柵の多くは、高い位置から景観を見下ろす際に邪魔にならないよう、細い部材で構成された透過性の良い柵であり、透過性が悪い柵(写真-2)を設置しているT-1では利用割合が低くなった。

一方、歩道と接道しているテラスでは、歩道とテラスに段差をつけたり、テラスを植栽で囲ったりすることで外部空間との境界線がわかるような整備を行っている。また、柵の整備に関しても前述のような転落防止のためではなく、テラスの範囲をはっきりさせるために柵が設置されている。しかし、T-4のようなテラス利用者の視界を妨げるほど高い植栽の設置(写真-3)や、Y-9のような高低差がほとんどない段差(写真-4)を設けてしまうとテラスの利用割合が低くなる傾向にある。このように、境界線を強調する際にも景観を阻害しない配慮が重要である。

【参考文献】

- 1) 太田川香ほか2名:「ウォーターフロントにおける店舗のオープンテラス設置方策に関する研究(その2)湘南に立地する飲食店を対象として」、日本大学理工学部学術講演会論文集, pp. 764~765, 2004. 11
- 2) 昭文社:「マップルマガジン東京・横浜・お台場・横浜 2006」, 2005. 8
- 3) 成美堂出版:「東京ベイエリア・横浜ベストガイド 2005」, 2004. 8

注1:①柵を低く設置 ②椅子の配置 ③透過性の良い素材を使用 ④前面の窓を開放 ⑤テラスを高い位置に設置 ⑥テラスを広く設置 ⑦照明を落とす ⑧夜はパラソルをとる 注2:特になし 注3:①オーニング ②ひさし ③屋根 ④パラソル ⑤遮光ロールスクリーン